

# CLARINET

## クラリネット

### 音階練習 1

森川修一 もりかわ・しゅういち



【出身】東京芸術大学、同大学院卒  
 【所属】神奈川フィルハーモニー管弦楽団  
 【趣味】酒とおいしい料理、猫が好き  
 【血液型】B型  
 【星座】いて座  
 【読者にひとこと】クラリネットでもいっきり音楽しよう！  
 【手紙の送り先】BJ 氣付

みなさん、こんにちは。前号で説明した「姿勢」・「腹式呼吸」・「よいアンブシュア」で、「低音部のロングトーンを安定した豊かな音で吹ける」ようになりませんか？ 以上のことが、クラリネットを快適に吹くための大きな土台となりますから、基礎練習としてこれからも大切にしてください。今回は音階練習に入ります。

#### ■音階練習(スケール)の目的

音階練習は、指を動かすためのトレーニングのように思えるかもしれませんが、その目的は、ロングトーンの延長線上にある練習、つまり安定した豊かな音が並ぶようにすることにあります。音階練習は、クラリネットの広い音域(低音～高音)をムラなくよい状態で演奏できるようにするための練習と考えてください。

#### ■音階を吹いてみよう!!

今回は【譜例1】を使って練習しましょう。♩=60ぐらいでゆっくり吹いてください。

- ①：スラーで吹いてみる。
- ②：mf～fで各音を十分に響かせる。
- ③：ブレスは息が完全になくなる前に、自分のペースで適当な場所で取るようにする。

②が一番大切です。自分の音を聴きながら、丁寧に音を並べていくように心がけてください。練習するときはメトロノームを使いましょう！ ただ③のブレスのときは、メトロノームのテンポと関係なく時間をとって十分に息を吸ってからその先を吹くようにしてください。息を長く続けることよりもあくまで②が優先ですよ！ 息については、1週間、2

【譜例1】 ♩=60



週間と練習を続けると、楽器の鳴らし方(奏法)がよくなってきますので、自然と長く続くようになってきます。ブレスに関しては、最終的に【譜例1】に書いた(V)の2箇所を済めば、楽器の奏法がかなりよい状態になっていると思ってよいでしょう。

#### ■運指の難しい音をうまくつなげるコツ

【譜例1】のAの部分「ラ→シ」は、「ラ」から全部のキを押さえる「シ」にすぐに移行するので、うまくつなげるのが大変です。左手の人差し指の「ラ」のキの押さえ方がポイントになります。【写真2】のように指の形がまっすぐで、しかも指の腹で「ラ」のキを押さえてしまうと「ファ#」のキに遠く、「ファ#」のキにすぐ移行できません。そこで、左手の人差し指の関節を曲げて、第1関節の横腹あたりで「ラ」のキを押さえると「ファ#」のキにすぐ届き、「ラ→シ」にすぐ移ることができます。【写真1】の「ラ」のキの押さえ方を参考にしてください。

では、人差し指の「ラ」のキの正しい押さえ方を【譜例2】を使って練習しましょう。

- ①「シ→ラ」をまず吹いてみましょう。大切なことは音を移るときに、左手人差し指を横に倒す感じで「ラ」のキに移ってください。そうすると

【譜例2】



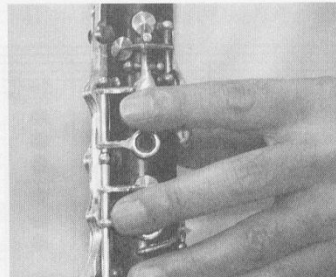
【写真1】のような指の押さえ方になっていると思います。あとは①・②・③の順で音がきれいにつながるように、ゆっくり練習してください。④のBの「ソ→ラ」のときも、☆の「ラ」のキを押さえる指の形が同じになるように注意してください。この項目は、かなり上達している人も、ぜひ一度ゆっくり確認してください。難しく速いパッセージも、左手人差し指を正しい位置で押さえることで、さらに滑らかに演奏できますよ!!

今回の音階練習は、1日5分～10分でも丁寧に続けていくことが大切です。安定した豊

【写真1】よい例



【写真2】悪い例



かな音がそれぞれの音域で並ぶように頑張ってくださいね。

次回のレッスンは、「タンギング」をテーマにします。

### 修のクラリネットを聴こう2

今月は、管弦楽法の達人で今年没後100年となるリムスキー＝コルサコフの代表作2曲を紹介します。1つはクラリネットの素晴らしい運動性能を十分発揮できる《スペイン奇想曲》です。もう1つは、運動性に加えて音楽表現の幅がより豊かで優美な交響組曲《シェエラザード》。私はとくに心に染み入る美しい第2・第3楽章をぜひ聴いてほしいと思います。音楽が夢の世界に連れて行ってくれると思いますよ!! リムスキー＝コルサコフは、各楽器を効果的に使う天才なので、この2曲は吹奏楽コンクールでも演奏されますね。